

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	移動支援のための福祉用具の使用実態と課題				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部・助教	氏名	大石 桂子
	研究分担者	所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	木林 身江子
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	短期大学部・助教	氏名	大石 桂子

講演題目
特別養護老人ホームにおける介護職員の福祉用具に関する実態調査及び研修プログラムの検討
研究の目的、成果及び今後の展望
<p>厚生労働省は平成25年に「職場における腰痛予防対策指針」を19年ぶりに改訂し、「福祉用具（機器・道具）を積極的に使用すること」、移乗介助や入浴、排泄介助においては「原則として人力による人の抱上げは行わないこと」、また対象者に応じて全介助が必要な場合にはリフト等、座位保持できる場合にはスライディングボード等の使用を検討することが明記されており、福祉用具を活用した介護技術の習得および入所施設における福祉用具の導入は、今後ますます求められると考える。しかし、高齢者施設における福祉用具の導入は進んでいない。</p> <p>また、令和4年度には「高齢者施設におけるスタンディングリフト導入の可能性に関する研究」を実施し、本学研究紀要第36号に投稿した。結果は、スタンディングリフトは調査対象施設では導入実績がなく、さらにスタンディングリフト使用が可能な対象者は施設全体の約1.5割程度の利用者に留まることが明らかとなった。また、調査対象の5施設では、スタンディングリフト以外の移動用福祉用具の導入も少なく、特にリフト（床走行・天井走行）の導入は2施設に留まった。これらの結果を踏まえ、高齢者施設では移動用の福祉用具導入が進んでいないことが明らかとなった。このように、福祉用具が導入されない要因をさらに明らかにするために、介護職員を対象としたアンケートを実施し、介護職員の福祉用具使用に対する知識、不安や悩み等を抱いているか、介護職員の勤務体制などが福祉用具使用に影響があるか等について調査をした。また、施設長に福祉用具導入に対するご自身の考えや施設の方針、施設内の職員教育の在り方等についてインタビューをした。</p> <p>調査は、本学の倫理審査承認後、特別養護老人ホームに勤務する介護職員を対象にアンケート調査、施設長を対象にインタビュー調査を実施した。今後の展望として、移動支援の福祉用具導入・活用を推進するための課題の解決に向けた検討及び研修プログラムの検討を引き続き行い、実際に研修を実施、検証していく。</p>